

平成 29 年度日本遺産認定申請に関する報告

1、概要

文化庁の取り組みである日本遺産認定については、平成 28 年 4 月以降、「田中正造関連史跡と渡良瀬遊水地の『日本遺産』認定をめざす会」と渡良瀬遊水地周辺 4 市 2 町で、協力、連携をとりながら取り組んできました。

平成 29 年度の新規認定にあたり、渡良瀬遊水地を代表するヨシ原の魅力を歴史的背景とともに国内外に広く発信し、関連する文化財群の活用により地域の活性化を図ることを目的として、15 の構成文化財を含むストーリー及び関係書類を作成し、文化庁への申請を行いました。

今後は、事業を実施する協議会等の体制整備を進めていきます。

2、経緯

月 日	内 容
H28. 4. 24	田中正造関連史跡と渡良瀬遊水地の「日本遺産」認定をめざす会臨時総会 第 1 案の提案
7. 14	文化庁事前相談（第 1 案）
9. 2	めざす会との打合せ
9. 9	めざす会会長との打合せ
9. 21	めざす会より第 2 案の提案
10. 6	栃木県をとおして文化庁へメールにて送付（第 2 案）
11. 11	めざす会との打合せ
12. 16	めざす会から第 3 案の提案
H29. 1. 11	栃木県へメールにて送付（第 3 案）
1. 23	めざす会との打合せ
1. 25	認定申請関係書類を栃木県へメールにて提出（第 3 案最終）
1. 27	認定申請関係書類を文化庁へ提出（1 月 27 日付）

3、申請ストーリー

別紙資料のとおり

4、問合せ先

栃木市総合政策部遊水地課 企画調整係 担当：深津（電話 0282-62-0919）

1、日本遺産について

①概要

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援しています。

認定を受けたストーリーに対しては、日本遺産魅力発信推進事業という文化芸術振興費補助金の交付による支援が受けられます。補助事業者は、申請自治体や文化財保存団体等で構成される協議会等となります。

②認定件数

2020年までに100件程度認定される予定となっています。

年度	認定件数	申請件数	認定発表日
27	<u>18</u>	83	平成27年4月24日
28	<u>19</u>	67	平成28年4月25日

2、申請ストーリー等（抜粋）

① 申請者	◎栃木県栃木市、小山市、野木町、茨城県古河市、群馬県板倉町、埼玉県加須市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
田中正造翁が問う「真の文明」によって守られるヨシ原／渡良瀬遊水地			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>本州以南最大のヨシ原「渡良瀬遊水地」では毎春日本一のヨシ焼きが行われる。焼き尽くされた大地から芽生えて夏には最長4mにまで生長するヨシとともに多様な生物が暮らし、その自然の中で様々なスポーツが行われる。しかし、このヨシ原は100年以上前の足尾鉍毒事件による谷中村廃村とその後の遊水地建設によって誕生し、廃村反対に命を捧げた田中正造翁が遺した「真の文明は山を荒らさず…」の言葉によって開発から守られてきた。</p>			
			
資料提供：堀内洋助		資料提供：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所	

ストーリー

①ヨシ原に魅せられる人々

見渡す限り真っ黒に焼けた大地。

数時間前までは紅蓮に燃える炎がヨシ原の上をなめるように這いずり回り、快晴の空に何条もの黒煙の柱が立ち上っていた。目をつぶれば、火が入るまでそこにあった4メートルにも届く黄金色のヨシが波のように風に揺れる姿が臉にはっきりと浮かぶ。しかし、目を開けると、ヨシ原は跡形もなく消え、只々黒い大地が広がっている。

ここは、関東平野のど真ん中に広がる渡良瀬遊水地。毎年3月、1500haのヨシ原が数時間で燃え尽くされる日本一のヨシ焼きが行われている。

自然の宝庫として、都心部から60kmという近い距離にありながら、絶滅危惧種183種を含む約3000種もの動植物の生命を育むこの大地は、ヨシ焼きという人の手によって守られ続けている。

ヨシ焼きにより数週間後、遊水地の黒い大地には新緑の息吹が満ち溢れる。真っ直ぐに伸びるヨシの新芽、足の踏み場もなくヨシの新芽の間に群生する絶滅危惧種のトネハナヤスリ、鮮やかな黄色に染まったノウルシ、可憐なうす紫の花をつけるチョウジソウ。今ではほとんど見られなくなってしまった平野部に広がる湿原の春の光景が、ここでは山手線内の半分もの面積に広がっている。

ヨシの生長に従って遊水地は変化する。青々としたヨシが人の背の高さになる6月ころには、ヨシキリやオオセッカがヨシ原を飛び交い、かまびすしい鳴き声が渦巻く。8月の終わりから9月のはじめには、南の国に帰るために集結した数万を超えるツバメたちが毎夕暮れ時に大空からヨシ原に急降し、ねぐら入りする。ヨシ原が黄金色に変化するころにシベリアなどから飛んできた数十羽のチュウヒたちは、ヨシ原をねぐらに遊水地の周辺で狩りをして冬を越すが、その数は日本有数と言われる。

四季折々に違った表情を見せる遊水地のヨシ原に身を置くと人は癒され、自然観察や自然体験をしようと多くの人が訪れる。

ヨシ原は自然体験を楽しむ自然愛好家だけではなく、その中で息を弾ませることの心地良さや空からの景観の見事に魅了されたアスリート呼び込む。ローラースケート、サイクリングをはじめ熱気球やスカイダイビングのスカイスports、ハート型の谷中湖でのウィンドサーフィン、カヌーなど様々なスポーツのメッカとなっている。アスリート、ハイカー、自然愛好家など渡良瀬遊水地の来訪者は年間120万人にも上ると言われている。



第11回渡良瀬遊水地フォトコンテスト入賞作品



第9回渡良瀬遊水地フォトコンテスト入賞作品

②田中正造翁が問う「真の文明」によって守られるヨシ原

本州以南最大のヨシ原、多くの生き物を育む自然環境は国際的に重要な湿地として2012年ラムサール条約湿地に登録された。しかし、このヨシ原が100年前には存在していなかったことをほと

んどの人が知らない。110年以上も前になる明治39年、明治政府は2500名もの人々が生活していた谷中村の土地を買収し廃村にして人々を移住させた。足尾から銅山の鉱毒を運び氾濫を繰り返して流域に鉱毒被害をもたらした渡良瀬川に遊水地を作ろうとしたのである。足尾鉱毒事件のために国会議員を辞して天皇に直訴を試みた田中正造翁が、廃村後も家屋の強制破壊を受け仮小屋を建てた16戸の人々とともに村を守ろうと、最期まで闘った場所がこの谷中村である。

田中正造翁が亡くなり、人々が村を離れ、渡良瀬川改修工事により大正11年に遊水地は完成する。その後、かつて沼や人家、農地が広がっていたところがヨシ原となり、ヨシ原はかつてここにあった谷中村の人々の生活と引き換えに誕生したのである。

ヨシ原とともに暮らすようになった周辺住民は、ヨシを素材にヨシズを作りはじめ、ヨシズ作りは以前からの養蚕とともに地元にとって重要な産業となった。良好なヨシを収穫するために昭和30年代から始まったヨシ焼きは、地元の産業を支えてきただけでなく、希少な植物の保全にもつながっており、日本最大の野焼きを見ようと、今では全国から1万人近くの見学者が参集する。



第9回渡良瀬遊水地フォトコンテスト入賞作品

しかし、この遊水地のヨシ原には、都心から近いこともありこれまで数々の開発計画の波が押し寄せてきた。その度に、地元では、田中正造翁が遺した箴言「真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」の言葉が反芻され、谷中村の犠牲の上に成り立つ「真の文明」とは何かとの問いに答えを求められ、ヨシ原の自然は開発から守られてきたのである。

③ヨシ原より自然、歴史、文化を学ぶ

渡良瀬遊水地を訪ねて、ヨシ原の自然の素晴らしさを満喫するとき、私たちは、ここで繰り返されてきた足尾鉱毒事件以来の歴史と交錯する。その歴史の痕跡は、遊水地の中心部、谷中湖のハート型のくびれの部分に谷中村史跡保全ゾーンとして遺され、洪水対策のため周囲より小高くなった水塚がそのままの形で保存されており、今でも田中正造翁が村民とともに晩年を送ったゆかりの場所である谷



資料提供：堀内洋助

中村役場や雷電神社、延命院の跡を辿ることができる。さらに遊水地周辺部に足を延ばせば、数多くの足尾鉱毒事件と田中正造翁に関わる史跡に触れることができる。

そして、かつてこの地域が洪水による自然の猛威と引き換えに得た肥沃な土壌に恵まれた豊かな農村であったことや、渡良瀬川、思川、巴波川に囲まれ江戸時代に河岸など水運の要衝として栄えた面影、渡良瀬川を堀として巧みに利用した古河城の遺構、人々が水と共に暮らした痕跡は、今でも渡良瀬遊水地に注ぐ谷田川の水風景観や周辺地域の史跡に確実に見ることができる。

渡良瀬遊水地は、関東でも有数の絶滅危惧種を見ることができるラムサール条約湿地に登録された、ヨシ原に代表される自然と野生生物の宝庫であるとともに、古くは、江戸と日光をつなぐ豊かな郷土としての歴史、また周辺地域の史跡とともに足尾鉱毒事件という日本の公害の原点としての歴史を遺し、日本のみならず世界に誇るべき自然・歴史・文化の遺産である。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	わたらせゆうすいち 渡良瀬遊水地	未指定	1,500ha のヨシ原が広がるストーリーの舞台であり、治水や利水のみならず、自然、歴史、レジャー・スポーツなど、他に類を見ない多様な環境を併せ持つ日本最大の遊水地。	栃木県栃木市、小山市、野木町、茨城県古河市、群馬県板倉町、埼玉県加須市
②	しもなまい きゅうおもいがわ 下生井の旧 思川	未指定 (市指定に向け手続き中)	渡良瀬遊水地の造成に伴って付け替えられた思川の約 1.4 kmに及ぶ河跡湖状の旧川筋。	栃木県小山市
③	きゅうやなかむらごうどういれいひ 旧谷中村合同慰霊碑	未指定	旧谷中村から移転された墓石や石碑類。古くは江戸時代・元禄の年号も記されており、かつての人々の営みや信仰の歴史を知ることができる。	栃木県栃木市
④	さんけんきょう 三 県 境 の 点	未指定	河川の付け替えによって地表に現れた栃木、群馬、埼玉の三県境界点。平地部にある三県境は全国でも稀である。	栃木県栃木市、群馬県板倉町、埼玉県加須市
⑤	かえもんちょう まちな 嘉右衛門町の町並み	国重伝建	渡良瀬川支流の巴波川を利用した江戸からの舟運で栄えた町には、見世蔵や土蔵など伝統的な町並みが現存する。	栃木県栃木市
⑥	おとめがし 乙女河岸と おがわけじゅうたく 小川家住宅	国登録有形	渡良瀬川支流の思川を利用した河岸で、ここで肥料問屋を営んでいた豪商小川家の屋敷。乙女河岸の繁栄を伝えている。	栃木県小山市
⑦	くわつ うた おど 桑摘み唄と踊り	未指定 (市指定に向け手続き中)	日本有数の養蚕地として栄えた谷中村周辺の生井地区で桑摘みの際に歌われた唄が伝承されている。	栃木県小山市
⑧	のぎらいでんじんじゃ 野木雷電神社	未指定	谷中村に二つあった雷電神社のうち、野木町に移遷された神社。色彩豊かな社殿と絵馬からは谷中村の豊かさが想像できる。	栃木県野木町
⑨	こがじょうあと いぬいもん 古河城跡と 乾 門	市指定	渡良瀬川を天然の堀とし、北関東と江戸・房総を結ぶ重要拠点であった古河城。現存する乾門は二の丸御殿の入口にあった。	茨城県古河市
⑩	たなかれいし 田中霊祠	未指定	田中正造翁の分骨地の一つ。大正 6 年に現地に移された。昭和 32 年に拝殿が完成し神社の中に納められた。	栃木県栃木市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑪	いたくら みずぼけいかん 板倉の水場景観	国重文景	囲堤やヨシ・ヤナギなどの植生、また、水塚など自然に対応したくらしのあり方が水場の景観として継承されている。	群馬県板倉町
⑫	たなかしょうぞう 田中正造の墓	市指定	田中正造翁の分骨地の一つ。谷中村とともに遊水地の候補地となった北川辺は、田中正造翁が指導した村民挙げての反対により存続した。	埼玉県加須市
⑬	いがぶくろ かわすじ 伊賀袋の川筋	未指定	渡良瀬川の旧河川として、今でも改修整備されることなく当時の川筋がそのまま残されている。	埼玉県加須市
⑭	したみやはちまんぐう 下宮八幡宮	未指定	谷中村の廃村によって、鳥居、狛犬等とともに古河市に移遷された谷中村ゆかりの神社。	茨城県古河市
⑮	みつか あげふね 水塚・揚舟	未指定 (一部は国重文景)	古くから水害常襲地帯であったことから生まれた、緊急避難場所として敷地の一部を高く土盛りし納屋や土蔵を建てた「水塚」や洪水時の避難手段としての「揚舟」が残っている。	栃木県栃木市、小山市、野木町、群馬県板倉町、埼玉県加須市

構成文化財の写真一覧

① 渡良瀬遊水地



資料提供：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所

② 旧思川



③ 旧谷中村合同慰霊碑



④ 三県境の点



⑤ 嘉右衛門町の町並み



⑥ 乙女河岸と小川家住宅



⑦桑摘み唄



⑧野木雷神神社



⑨古河城跡と乾門



⑩田中霊祠



⑪板倉の水場景観



⑫田中正造の墓



⑬伊賀袋の川筋



⑭下宮八幡宮



⑮水塚・揚舟



栃木市 総合政策部
遊水地課 企画調整係 深津
TEL 0282-62-0919
FAX 0282-62-0922